

第3学年〇組 国語科学習指導案

平成〇〇年〇〇月〇〇日 (〇) 第〇校時
 第3学年〇組教室 (在籍生徒数36名)
 授業者 教諭 〇〇 〇〇

- 1 単元名 論旨を捉えて - 対象を評価しながら、自分の考えを広げ、深める
 教材名 『作られた「物語」を超えて』 山極 寿一

2 生徒の実態と本単元の意図

(1) 生徒の実態

本学級の生徒は、全国学力学習調査(国語A)において、領域③「読む」の正答率は72.1%と全国平均(73.8%)は下回ったものの、県の平均(71.6%)よりは高い正答率であった。(表1)しかし、その中で設問4-「文章の要旨を捉える」問題では、正答率が70.6%と県の平均(79.8%)を大きく下回っており、論説文において内容を正しく捉えられていない生徒が多くいる。また、全国学力学習調査(国語B)の結果では、平均正答率は全国平均をわずかに上回っていたが、「話すこと・聞くこと」の領域および、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域が、全国平均や県の平均よりも下回っていた。(表2)このことから、基礎基本の定着と共に、論説文における要旨の読み取りや「話すこと・聞くこと」の領域に課題がある。また、県の学力学習調査のクロス集計においても、「話す・聞く能力」の成績が上位の生徒ほど成績の伸びが良いこともわかる。(表3)

学習活動への取り組みに対して意欲的な生徒が多いが、活動の内容を理解することに時間がかかる生徒や、なかなか活動に集中できない生徒もいる。そのような生徒もグループでの話し合い活動を通して、論説文の内容を捉えていけるようにしたい。また、少人数のグループでの活動により、主体的に活動に取り組み、自分の意見を発表できるようにすることで、「話す・聞く」力を高め、総合的に国語の力を伸ばしていきたい。

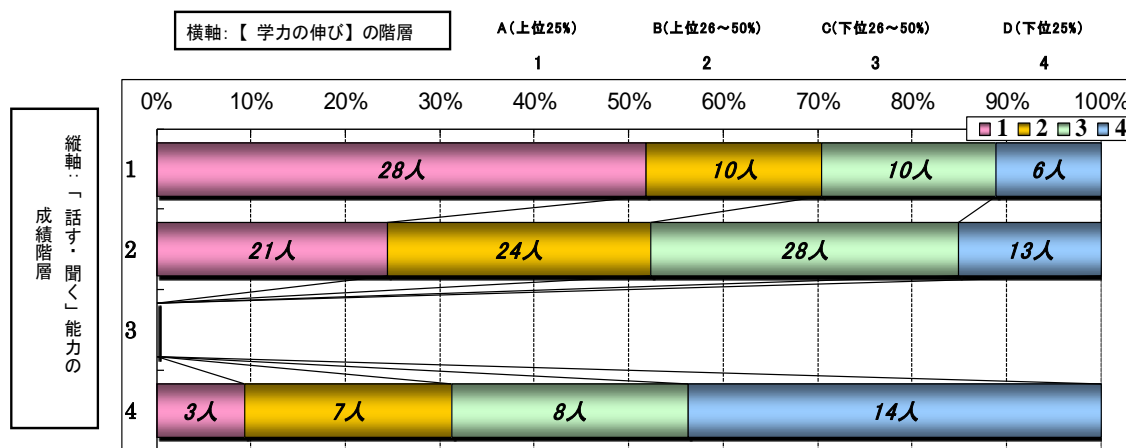
(表1)

国語A	生徒数	平均正答数	学習指導要領の領域等別 平均正答率(%)				4-	
			領域等①	領域等②	領域等③	領域等④	正答率	無解答率
〇中学校 〇組	34	23.9 / 32	74.3	85.3	72.1	73.2	70.6	0.0
埼玉県(公立)	57,873	24.3 / 32	74.0	84.4	71.6	76.0	79.8	0.2
全国(公立)	982,511	24.8 / 32	75.4	85.7	73.8	77.2	81.0	0.2

(表2)

国語B	生徒数	平均正答数	学習指導要領の領域等別 平均正答率(%)				評価の観点別 平均正答率(%)				
			話す・聞く	書く	読む	伝国	関・意・態	話す・聞く	書く	読む	言語
〇中学校 〇組	34	6.6 / 9	71.6	64.0	72.8	35.3	57.8	71.6	64.0	72.8	35.3
埼玉県(公立)	57,861	6.5 / 9	71.7	60.6	71.4	41.4	55.5	71.7	60.6	71.4	41.4
全国(公立)	982,619	6.5 / 9	72.4	60.8	72.1	41.4	55.9	72.4	60.8	72.1	41.4

(表 3)



(2) 教材観

本単元では、「論旨を捉えて」 - 対象を評価しながら、自分の考えを広げ、深めることを目標としている。そこで、筆者の主張を読み取り、自分の考えを他者と比較しながら深めることをねらいとしている。この教材は、長年ゴリラの研究を続けてきた筆者が人間社会を考察し、言葉をもったがゆえの光と影に触れ、「ものの見方」について説いた文章である。誤解に基づく「物語」は、生徒にとって身近に感じられるものであり、言葉や「物語」といった側面から、人間社会や平和、自然など、幅広いテーマでアプローチが可能な教材である。

(3) 指導観

多様な価値観や情報があふれる社会に生きていく生徒たちに、思考の幅を広げ、世界を見るための視点、真実を知ろうとする視点を育みたい。また、本教材は、客観的な根拠に基づいて、筆者の主張を効果的に表す語句の使用や論理の展開のしかたに工夫がされており、それらに注意しながら筆者の主張を読み取り、人間や社会に対する自分の考えを広げ、深めさせたい。

そのために、資料から自分なりの考えを表現できるよう、本単元では第1時に筆者の主張を読み取り、第2時で筆者の主張の中心である「作られた『物語』」という表現について考え、グループ内で交流する。第3時では、「作られた『物語』を超え」ていくという筆者の主張について考え、グループ内で交流をすることで、自分の考えと他の生徒の考えの違いから多様な意見を知り、さらに自分の表現を工夫できるように指導をしていきたい。第4時では、本単元を通しての言語活動として意見文を書き、読み取った筆者の主張や表現の仕方を基に、自分の考えを自分の言葉で表現できるようにしたい。また、教材の目標を達成するとともに、本学年の生徒の課題である「話すこと・聞くこと」の力をつけられるようにすることを意識して指導に当たりたい。

3 研究仮説に対する具体的な指導と手だて

本年度の研究課題「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善、研究の視点「主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくり」に向けて、以下のような仮説と手だてを設定した。

【仮説1】

本文を根拠にして自分なりに考えをまとめてからグループ内で発表し合うことにより、主体的に学ぶことができるであろう。

【仮説2】

自分の考えをグループの中で発表し、また、グループ内で他の意見を聞くことで、グループ内で対話的に、筆者の主張をより深く学び、思考力・判断力・表現力を高めることができるであろう。

【手だて1】

- ・学習課題を提示し、自分なりの意見をまとめてから話し合いに取り組むようにする。
- ・本文の記述を根拠として、自分なりの意見を考えさせる。

【手だて2】

- ・グループでの話し合い活動を通して、筆者の主張を捉える。
- ・他のグループの意見も聞き合うことで、新たな「気づき」を持たせる。

4 単元の目標

- (1) 筆者の主張と事例の関わりについて知り、筆者の主張に対して自分なりの考えを広げようとしている。
(関心・意欲・態度)
- (2) 筆者の考えを表す語句や論理の展開に着目して主張を捉えることができる
(読むこと)
- (3) 筆者のものの見方や考え方を踏まえて、人間、社会、自然などについて自分の考えをもつことができる。
(読むこと)
- (4) 他者の表現の仕方と自分の表現を比べ、語感を磨き語彙を豊かにする。
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

5 単元の評価規準と学習活動に即した評価規準

※ () の部分はAの状況、他はBの状況を示す

	ア 国語への関心・意欲・態度	エ 読む能力	オ 言語についての知識・理解・技能
単元の評価規準	・筆者の論の進め方の工夫について興味関心を持ち、筆者の主張と言葉の使い方について自分なりに考えようとしている。	・筆者の考えを表す語句や論理の展開に着目して主張を捉えている。 〈イ〉 ・筆者のものの見方や考え方を踏まえて、人間や社会に対する自分の考えを持っている。 〈エ〉	・他者の表現の仕方と自分の表現を比べ、語感を磨き語彙を豊かにしている。 〈イ(イ)〉
学習活動に即した評価規準	①(意欲的に) テーマについて考え、比較して物事を理解しようとしている。 ②他の生徒の意見を聞き、自分の考えを広げるのに役立てようとしている。	①筆者の主張を本文の記述や展開を根拠にして(的確に)捉えている。 ②「物語」や、その超え方、「新しい世界」について自分の考えを持っている。	①場面や相手に応じた(適切な)言葉を選んでいる。 ②筆者独自の言葉の使い方や意味を(的確に)捉えている。

6 指導と評価の計画（全4時間）

時	主な学習活動	学習内容	評価規準・評価方法
1	<p>○本文を音読し、初読の感想を書き出した後、本文の構成と学習課題を確認する。</p> <p>【ペア、全体学習】</p> <p>○全体で学習課題を確認する。</p>	<p>○本文の構造と筆者の主張、論理の展開の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本文の構造を理解する。 ・筆者の主張を捉える。 <p>○学習課題の把握</p> <p>1 筆者は、なぜ物語に「 」をつけたのか。</p> <p>2 『作られた「物語」』とは、どういうことか。</p> <p>3 『作られた「物語」を超え』るとは、どういうことなのか。</p> <p>4 『作られた「物語」を超え』た先には、何があるのか。</p>	<p>ア① エ① オ②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習活動に対する取り組みの様子や態度の観察 ・ノートでのまとめと自分の考えの記述 <p>※学習課題を提示し、次時への関心を高める。</p>
2	<p>○学習課題の根拠となる叙述を本文より読み取り、自分の言葉で答える。</p> <p>【個人、小グループ、全体】</p> <p>○学習課題1、2について、グループ内で自分の意見を発表し合い、グループでまとめ、全体に発表する。</p>	<p>○学習課題</p> <p>課題1 筆者は、なぜ物語に「 」をつけたのか。</p> <p>課題2 『作られた「物語」』とは、どういうことか。</p>	<p>ア② エ② オ①②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題への取組の様子や態度の観察 ・ワークシートの考察 ・話し合いの観察
3 (本時)	<p>○グループ内で自分の意見を発表し合い、グループでまとめ、全体に発表する。</p> <p>【個人、小グループ、全体】</p> <p>○他者との交流をし、自分との考えを比較する。</p>	<p>○学習課題</p> <p>課題3 『作られた「物語」を超え』るとは、どういうことなのか。</p> <p>課題4 『作られた「物語」を超え』た先には、何があるのか。</p>	<p>ア② エ② オ①②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題への取組の様子や態度の観察 ・ワークシートの考察 ・話し合いの観察
4	<p>○交流を経て、自分の意見をまとめる。</p>	<p>○身の回りにある「作られた物語」は、どんなものがあるか、本文の記述を基に自分の考えを意見文として書く。</p>	<p>ア① エ② オ①②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題への取組の様子や態度の観察 ・ワークシートの考察

7 本時の学習指導

(1) 本時の目標

- ・他の生徒の意見を聞き、自分の考えを広げるのに役立てようとしている。 (関心・意欲・態度)
- ・「物語」や、その超え方、「新しい世界」について、筆者の意見を読み取り、自分の考えを持つことができる。 (読むこと)
- ・場面や相手に応じた言葉を選び、筆者独自の言葉の使い方や意味を捉えることができる。
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

(2) 本時の展開 (3 / 4)

学習活動	学習内容	指導と評価の創意工夫
1 前時の復習と本時の目標を確認する。		<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習内容を思い出させ、本時の課題につなげる。
<p>筆者の主張を読み取り、自分の考えを深める。</p>		
<p>【全体】</p>		
2 課題3 『作られた「物語」を超え』るとは、どういうことなのか考える。	○説得力のある意見の持ち方	<ul style="list-style-type: none"> ・グループでの話し合いの前に、自分なりの意見をまとめさせる。
<p>【根拠となる叙述】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その誤解を解くためには、相手の立場に立って、一つ一つの行動にどんな意味があるかを考えることが必要である。(P.162) ・作られた「物語」を超えて、その向こうにある真実を知ろうとすることが、新しい世界と出会うための鍵なのだ。(P.164) <p>【予想される意見の例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間が印象を基に作った誤解を解くこと。 ・相手のことを良く知ること。 ・誤解の先にある真実を知ること。 		
グループ内で発表し合い、グループ内で意見をまとめ、全体に発表する。	○小グループでの意見交流の仕方	<ul style="list-style-type: none"> ・4人ずつの小グループで、自分の意見を発表し、グループの意見としてまとめさせる。 ・【課題3】については、全ての班に発表させるのではなく、いくつかの班に発表させ、板書する。
4 課題4 『作られた「物語」を超え』た先には、何があるのかについて考える。	○説得力のある意見の持ち方	<ul style="list-style-type: none"> ・【課題4】について、グループで話し合う前に、本文の叙述を根拠として、自分なりの考えを持つ。

<p>【根拠となる叙述】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「物語」の誤解を超えた先には、「ゴリラが人間とは別の表現を用いて平和を保っている」という私にとって新しい価値をもつ豊かな世界が広がっていた。(P.163) ・作られた「物語」を超えて、その向こうにある真実を知ろうとすることが、新しい世界と出会うための鍵なのだ。(P.164) <p>【予想される意見の例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しい価値をもつ豊かな世界。 ・新しい世界。 ・差別などのない平和な世界。 ・いろいろな人と分かりあえること。 ・今まで知らなかったことを理解すること。 		<p>【評価場面】</p> <p>〈学習活動に即した評価規準〉 ア②、エ②、オ①②</p> <p>〈評価方法〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・机間指導による観察 ・ワークシートの内容 <p>〈手だて〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本文の記述を参考にすることを助言する。 ・グループ内での話し合いの仕方について助言する。
<p style="text-align: center;">【個人】</p>		
<p>5 グループ内で自分の意見を 発表し合い、グループとして の意見をまとめる。</p> <p style="text-align: center;">【4人班】</p>	<p>○小グループでの意見交流の仕方</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・4人ずつの小グループで、自分の意見を発表し、グループの意見としてまとめさせる。 ・キーワード、キーセンテンスに注意してまとめさせる。 ・事実と意見の違いを捉えさせる。 ・全ての班に発表させるため、発言による発表ではなく、各グループに紙に書かせて黒板に掲示できるようにする。
<p>6 グループ内でまとめた意見を紙に書き、黒板に掲示して全体に発表する。</p> <p style="text-align: center;">【個人・全体】</p>	<p>○筆者の主張の把握の仕方</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・他のグループの意見を参考にし、新たな「気づき」を得させる。
<p>7 本時の学習内容を発表させる。</p> <p style="text-align: center;">【全体】</p>	<p>○学習内容の整理の仕方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体で学習のまとめ 「～できた。」「～がわかった。」 ・個人での振り返り 「話し合いをしたことで～」 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの意義を実感させる。 ・話し合いで自分の意見が変わった場合、変わらなかった場合のどちらも気づきをおさえ、他者と共有させる。
<p>8 次時の学習の見通しをもつ。</p> <p style="text-align: center;">【全体】</p>	<p>○意欲の継続の仕方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本文の記述の仕方を参考にし、自分の考えを意見文として書くことを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次時への意欲を持たせる。

本時の目標

筆者の主張を読み取り、自分の考えを深める。

【課題3】『作られた「物語」を超え』とは、どういうことなのか。

【課題4】『作られた「物語」を超え』た先には、何があるのか。

【課題3】

- ・ 相手を良く知ること
- ・ 誤解の先にある真実を知ること
- ・ . . .

グループの発表例

【課題4】

A班：新しい価値をもつ豊かな世界

B班：新しい世界

C班：差別などない平和な世界

D班

E班

F班

G班

H班

I班

